

株式会社KANO 代々続く「のれん」の誇りを守る



創業
107年

創業：1910（明治43）年
本社所在地：東京都品川区西五反田1-25-1 KANOビル
電話番号：03-3491-4847

代表者：代表取締役 狩野 武司



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



5代目 代表取締役
狩野 武司

先代たちが築き上げた人脈やご縁に助けられた

1989（平成元）年にKANOビルを竣工し、金物卸売・小売業から不動産管理業にシフトしていきました。しかし、一時的に収益が落ち込み、危機に直面。それでも、代々築き上げてきた人脈やご縁に助けられ、「のれんを失いたくない」という強い思いが結実して何とか乗り越えることができました。



建築金物屋として地元に着き
現在は不動産管理業でのれんを守る

創業は1910（明治43）年で、くぎなどの建築金物を中心に取り扱ってきました。この地域には大工が多かったこともあり、大正・昭和期には順調に事業を展開できました。平成に入るとビルを建築し、不動産管理業も営むようになりました。私が5代目として継ぐころになると、インターネット通販が登場したため、個人向けの商品は売れなくなると予測し、飲食店や建築関係が多い五反田の街に合わせた、業務用の商品中心にしました。その上で、売上を伸ばすために店舗を改装したり、品ぞろえを広げたりして試行錯誤し、さらに専門的でニッチな市場をねらいました。それが功を奏し、ドアクロージャーや防犯鍵などで成果を出すことができました。その後は不動産管理業の業績が上がったため、同業に専念し、当社ののれんを守っています。

小売業(海苔小売)

品川屋海苔店 江戸前の海苔の味と香りを伝え続ける



創業
105年

創業：1912（大正元）年
所在地：東京都品川区北品川2-26-19
電話番号：03-3471-4649

代表者：保川 泉
従業員数：2名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目
保川 泉

品川海苔壊滅後も、東京湾産の海苔にこだわった

昭和30年代、品川浦は工業の発展とともに埋め立てられ、品川海苔は過去の物となりました。それでも当店は東京湾産にこだわり続け、先代までが積み重ねてきた歴史と信用のおかげで、千葉県の大津産などの良質な海苔の仕入れに成功。料亭や寿司屋との取引も継続。贈答や家庭用の推奨店になりました。



良質な海苔の魅力と
品川宿の歴史を守り続ける

江戸時代、遠浅な品川浦では魚介類が豊富にとれ、「江戸前」の語源にもなりました。海苔の名産地として名を馳せ、「品川海苔」は浮世絵でも名物として紹介されています。当店の創業は1912（大正元）年で、良質な品川海苔を製造し、料亭や寿司屋に納めていました。昭和30年代に品川海苔が壊滅した後も東京湾産の海苔にこだわり、千葉県の富津産などの良質な海苔を仕入れ、取引を続けています。私は3代目の婿養子に入り、4代目としてこの店を継ぎました。北品川商店街協同組合の理事長を務め、地域経済の振興にも取り組んでいます。区随一のイベントである「しながわ宿場まつり」も今年で27回目となり、年々参加者が増えています。このような品川らしい祭りに大勢の観光客が来てもらい、品川宿を知ってもらえたらと思います。

小売業(海苔小売)

株式会社みの屋海苔店

時代を越えて愛される
海苔をお客様に届ける



創業

105年

創業：1912年(大正元年)
資本金：3,800万円
本社所在地：東京都品川区南品川6-7-7
電話番号：03-3474-5522

代表者：代表取締役 寺平 喜昭
従業員数：14名



我が社の
百年譚

信頼を裏切らない、
丁寧な海苔づくり

「みの屋」という屋号は、初代・米吉の修業先からもらいました。当店のルーツは長野の上諏訪。雪深い冬に上京し海苔の収穫を手伝ったことから、東京の海苔業者には長野出身者が多いといわれています。2代目の清は高校を出てすぐ跡を継いだようです。1950(昭和25)年から築地で店舗を構え、業者および一般向けに海苔の販売を開始しました。1962(昭和37)年からは「明治屋」との取引が始まり、3代目である現在も、名古屋にある自社工場で製造した品質の高い商品を全国のお客様に提供しています。数年前からは添加物を使用しない味付海苔の製造を始めました。仕事をする上で一番大切にしていることは「信頼関係」。得意先や仕入先の方たちはもちろんのこと、従業員との関わりにおいても同じ心構えです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



長年勤務する従業員とともに

パン食の定着や贈答品の多様化など、時代の流れで海苔業界全体が厳しい時期もありました。その都度「責任を持って仕事をする」との覚悟で経営判断をし、大きな打撃を避けてきました。しかし何よりも、長年勤めている社員の皆さんのおかげでここまで事業を継続できたと感じています。

小売業(酒小売)

株式会社ワインショップ西川

仕入値と品質の
バランスを見極める



創業

105年

創業：1912(大正元)年
本社所在地：東京都品川区上大崎2-15-16西川ビル
電話番号：03-3441-3624

代表者：代表取締役 西川 紘
従業員数：3名



我が社の
百年譚

昔ながらの酒屋からワイン中心に
吟味した直輸入物で量販店と差別化

私の祖父が1912(大正元)年に創業しました。当初は瀬戸物屋で奉公していましたが、日露戦争の頃に軍隊で知り合った人に影響され、酒屋に転向。修業先から独立して今の所在地に店を構えました。商売は軌道に乗り、5人ほどの従業員を雇うまでになりました。その後、戦時中の危機を乗り越え、祖父と父で再出発。3代目の私は昭和40年頃に店に入りました。ワインを始めたのは昭和50年代。当初は細々としたものでしたが、ボージョレーヌーヴォーのブームの頃からワインの取扱いを強化し、酒類輸入卸免許を取得。その後、ボルドーワイン振興に貢献した人々に贈られる「ボンタン騎士団」の称号を頂きました。現在は同じくボンタン騎士団の称号を持つ四代目の息子が選んだ品揃えで、量販店との差別化を図っています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



3代目 代表取締役
西川 紘

母の奮闘で戦争を乗り切った

戦時中には従業員のみならず二代目の父も出征しました。そんな人手不足の中、店を守ったのが母でした。弊社が今日あるのは、母と残った従業員の方々が一生懸命働いてくれたおかげだと思っています。

建設業(とび土木工事・廃棄物収集運搬)

有限会社新井商店

「仕事は真面目に丁寧に」が
モットー



創業
103年

創業：1914（大正3）年
本社所在地：東京都品川区大崎1-18-2
電話番号：03-3491-9987

代表者：代表取締役 新井 敬二



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
新井 敬二

街が変わっても、地域と歩む姿勢は変わらず
工場地だった大崎地区は、再開発で高層ビルが建ち並び街へと変貌しました。それでも、当社3代目の新井敬章が地元・居木橋町会の会長を長らく務め、熱心に活動したように、当地区には事業所が地域とともに歩む風土があります。当地で長年続く事業所として、今後も地元を大切にしていきます。



経験豊かな職人が力を発揮
専門的かつ多様な業務に対応

1914（大正3）年に新井勇次郎が創業し、ある地元企業の工場の専属出入業者として、構内の営繕作業や不要廃品類の処理などを引き受けていました。自動車の普及前でしたので、馬車で構内の廃棄物を集め、船で品川埠頭まで運んでいたそうです。1937（昭和12）年にはその工場内に営業所を開設しましたが、戦災で工場もろとも焼け野原に。当社は後片付けなどの業務を請け負い、工場の復興に尽力しました。やがて私の父で3代目の新井敬章が20代で事業を引き継ぎ、1961（昭和36）年には有限会社新井商店を設立。工事部門も設置し、廃棄物収集運搬、清掃作業、重量物の運搬据え付け、とび・土木工事と、専門的かつ多様な業務に従事してきました。私は2011（平成23）年に跡を継ぎ、経験豊かな職人とともに、近隣の事業所を中心に事業を展開しています。

中小企業

製造業(中華麺類製造・卸)

株式会社南京軒食品

お客様の要望に合わせた麺を
自社で開発、製造、配送



創業
103年

創業：1914年（大正3年）
資本金：9,400万円
本社所在地：東京都品川区小山4-15-3
電話番号：03-3781-5958

代表者：代表取締役 三浦 健太郎
従業員数：51名
売上高：8億2,940万円
URL：http://nankinken.jp



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
三浦 健太郎

誠実な仕事で新しいチャンスをつかむ
バブル崩壊やリーマンショックなど、時代のあおりを受け、しんどい時期もありましたが、その度に普段からの人付き合いに救われました。廃業される同業他社の仕事を引き継いだこともあります。誠実な仕事でピンチのときのチャンスにつながり、困難を乗り越えてきたと感じています。



外食産業の発展に寄り添って

初代・平岡儀作は熊本で和菓子職人をしていましたが、白金で食堂を営んでいた姉夫婦に中華麺製造を商売にしてみないかと声をかけられて上京。その後現地に移り、最初は屋台の個人事業者に向けて中華麺の製造・小売をしていました。戦後、中華料理店が増えたところから少しずつ商売が軌道に乗り、1966（昭和41）年にラーメン食堂「元祖札幌や」との取引を始めました。当時100店舗以上に展開した同店とともに事業を拡大。その後もお客様の増加などに伴って中華麺だけでなくさまざまな食材や業務用食材消耗品などを卸し、会社を成長させました。これからも、100年以上続けてきた製麺技術にプライドを持って日本の食文化に寄り添い、発信する役割を担っていきたいと思っています。

製造業(電気絶縁材料の製造・販売)

株式会社日本理化工業所

「絶縁テクノロジー」で
新たな価値の
創造に取り組む



創業
103年

創業：1914（大正3）年
資本金：9500万円
本社所在地：東京都品川区大井1-20-6
電話番号：03-3771-0174

代表者：代表取締役 大栗 崇司
従業員数：470名
URL：http://www.nipponrika.jp/



我が社の
百年譚

顧客の高い要求にこたえ
常に挑戦し続ける

初代の大栗虎三は銀座で運送業を営んでいました。ある日、得意先に言われた「これからは電気の時代だよ」との言葉が虎三の人生を変えました。虎三は独学で研究を進め、電気を制御する絶縁システムに着目。鉱物「マイカ（雲母）」の可能性を信じ、製品化したのが当社の始まりです。その後、電気絶縁メーカーとして、日本を代表する大手電機メーカーとともに国内外の電機産業の発展に貢献してきました。現在は顧客のニーズの変化に応じ、基板事業やコイル事業にも注力、着実に海外拠点を増やし、商社事業などグローバルに展開しています。100年にわたり成長を続けているパワーの源は、マイカの草分け的存在という立場に甘んじることなく、常に新たなジャンルに挑戦し、今までにない価値の創造を目指す社風に他なりません。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



6代目 代表取締役
社長
大栗 崇司

評価された品質の高さ

創業時は、なかなか大手企業に採用してもらえず、経営が行き詰まっていた。しかし、関東大震災の混乱で海外製品の輸入が止まり、当社の商品に白羽の矢が立ったのです。そこで品質の高さが評価され、国内一流重電機メーカーから次々と受注し、会社は急成長を遂げました。

運輸業(貨物自動車運送)

小林運送株式会社

それぞれの時代に必要な
物流を見極める



創業
101年

創業：1916年（大正5）年
資本金：4,000万円
本社所在地：東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビルディング1F
電話番号：03-5496-1201

代表者：代表取締役 小林 裕
従業員数：89名



我が社の
百年譚

トラック1台から
人や地域と深く関わって

創業者・義孝は長野から上京し、大崎駅前の馬車屋で馬方をしながら米などを運んでいました。1916（大正5）年にトラック1台から当社を創業。事業は徐々に軌道に乗りました。戦時中は浮き沈みもあったようですが、戦後復興の時代は木材を、東京オリンピック以降は鉄筋や銅板などその時代に必要とされる物流を展開。現在は精密機器、家電、文具、印刷紙やアミューズメント機器など幅広い商品を運んでいます。仕事に対しては先代から「車や倉庫は買えるけど人は買えない」という思いを受け継ぎ、従業員を大切にすることを常に心がけています。3代目の榮子は警察署の協議委員長などを務め、現在は街頭で子どもたちの登校見守りへの参加など、地域活動にも深く携わっています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 取締役代表
小林 裕

焼け跡から立ち上がる

東京大空襲ですべてが焼き尽くされた中、焼け跡から集めた車のエンジンを修理し、薪で動かす代燃車を組み立ててトラックを動かしたと聞いています。そうして1台ずつトラックを増やして仕事を続けた創業者の不屈の精神が、現在までの事業継続の根幹になっていると感じています。

小売業(茶小売)

株式会社若素園

顔の見える商いで
信頼関係をていねいに重ねる

創業

101年

創業：1916年(大正5年)
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区北品川2-6-13
電話番号：03-3471-3582

代表者：代表取締役 堀口 尚利
従業員数：4名
URL：http://www.wakamotoen.com



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



3代目 代表取締役
堀口 尚利

在庫に対する意識改革

主力事業の葬儀の返礼品の売り上げが減少し、これまで日本茶だけだった品揃えを転換して飛び込み営業で仕入先を開拓しました。また未使用分は返品を取ってもらうことにし、「いつか売れるから」と過度な仕入れを自重。会社の体質改善を図ることで、大きな打撃を回避できたと考えます。



地域の皆さまの「頼られる存在」に

「若素園」は祖父・茂の奉公先でした。両親が亡くなって後継ぎとなり、当時は五反田に店を構えていましたが、戦後に現在地へ移ってきました。2代目の眞男が葬儀の返礼品としてのお茶の販売を始め、事業は徐々に成長。それ以来コツコツとお茶の小売業を続けています。3代目になった現在も「お客様に頼られる存在に」をモットーに、お茶だけではなくお菓子などさまざまな商品を取り扱うようになりました。商店街の理事も務めており、地域の方たちと深く関わっています。長く通ってくださるお客様も多いのですが、最近は小さなお子様連れのお母さんや、お昼休みのサラリーマンなど、新しい世代のお客様も増えてきました。今後も地域の皆さまに頼りにしていただけるよう、精進していきます。

中小企業

製造業(金網製造)

曽根金網工業株式会社

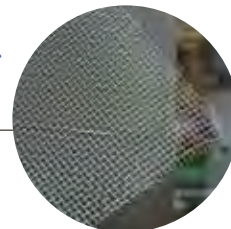
「少量多品種」と高い専門性で
時代の変化にも適応

創業

101年

創業：1916年(大正5年)
資本金：1000万円
本社所在地：東京都品川区南品川1-3-7
電話番号：03-3471-5731

代表者：代表取締役 曽根 成浩
従業員数：4名
売上高：1億円
URL：http://www.sonewn.com/



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



3代目 取締役代表
曽根 成浩

培ったネットワークを活用して

金網加工は、機械化が進んでも手作業が必要な工程が多く、職人の勤が求められる場面も少なくありません。製造業の空洞化が加速する中、これまで培ってきたネットワークを駆使し、それぞれの店や職人の得意分野を生かした金網を取り引きすることで、事業を継続できたのだと思います。



金網業界全体の発展に貢献

初代の甚蔵が手織り金網の見習いを経て、文京区大塚辻町に金網店を開店したのが創業です。1932年(昭和7年)に南品川に移転し、戦後すぐ、現在地で「曽根金網工業株式会社」を設立。東京オリンピックを挟んで事業は急成長し、2代目・伸郎はとにかく忙しかったようです。金網の種類は多様で、当社は金網や樹脂網を使った加工品を製造販売しています。昔は職人の技術や育成も大事な仕事でしたが、業界全体が縮小しつつある今は、横のつながりや助け合いを大事にするようになりました。現在は、東京金網商工組合の会長を務め同業者から相談を受けることもあります。また組合や金網文化の歴史をまとめた冊子の編さんにも関わっていて、金網業界全体に貢献できるような事業を日々心がけています。

卸売・小売業(専門輸入商社)

株式会社ジャパンコマース

「誠実に、元気に
明るく」がモットー



創業
101年

創業: 1916 (大正5)年
資本金: 1000万円
本社所在地: 東京都品川区北品川1-12-10 ジャコムビル6F
電話番号: 03-3471-8361

代表者: 取締役会長 堀口 嘉代子
代表取締役社長 堀口 和代
従業員数: 7名
URL: <http://www.jacom-hawaii.com/>



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



取締役会長 (3代目
代表取締役社長)
堀口 嘉代子

バブルに踊らず、自社のキャパシティを守った

バブル期には、事業の急拡大を促すような誘いが多々ありましたが、先代の堀口 壬也はすべてお断りしました。時代の波に惑わされることなく自分たちのキャパシティを守り、堅実に目の前の仕事をこなしていくことを選んだおかげで、現在があると思います。今後とも先達の方針を大切にしていきたいと思います。

我が社の
百年譚

日本の近代化を担った酸素溶接工場から
ハワイ州政府からも信頼される商社に

1916 (大正5) 年に初代・堀口貫らが創業した安部酸素工業所がルーツです。自動車部品再生修理工場として酸素溶接修理業を営み、日本の近代化に貢献してきました。戦後、1951 (昭和26) 年には株式会社に組織変更。2代目社長の壬也が事業を拡大し、1988 (昭和63) 年には社名を株式会社ジャコムに改称して工場を羽田に移し、跡地に現在の本社ビルを建築しました。さらに商事部を設け、ハワイ商品の輸入販売を開始。その後、工場部門に続いて1996 (平成8) 年に商事部門を独立させて株式会社ジャコム商事を設立し、2015年には現社名に改めました。現在、長女で4代目社長を継いだ和代とともに、「ハワイ州政府との信頼関係」「直輸入による本物志向」を大事にしながら、専門輸入商社として事業拡大を目指しています。

不動産業(不動産賃貸・管理)

株式会社塚本恒産

「恒産なくして恒心なし」を
モットーに



創業
101年

創業: 1916 (大正5)年
資本金: 1000万円
本社所在地: 東京都品川区西大井2-23-3
電話番号: 03-3771-0794

代表者: 代表取締役 塚本 信江
従業員数: 2名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
塚本 信江

時代の流れを受け入れて業態転換

大正年間から公衆浴場業を営んできました。昭和40年代になると風呂付きの家が一般的になり、お客様が1/5以下に。西大井以外にも2軒あった銭湯を1989 (平成元) 年から閉めていき、跡地を駐車場やマンションとして活用していきました。平成6年には不動産業に完全移行し、現在に至っています。

我が社の
百年譚

代々続けた公衆浴場業から
土地資産を活かした不動産業に

富山県出身の祖父・塚本作蔵は1892 (明治25) 年に単身上京し、銭湯に奉公しました。真面目で我慢強い気質もあって、1916 (大正5) 年には独立して現・千代田区紀尾井町に自分の店を出しました。しかし1932 (昭和7) 年に他界。2代目となる父・政吉が19歳で継ぎました。その後、目黒で店を構えますが、戦時中の空襲で全焼したため、出征先から戻った父は西大井の当地に空いていた浴場を購入。当時、地方からの上京者で人口が急増していて、朝から深夜まで営業しても、毎日お客様が溢れんばかりの盛況ぶりでした。その後1983 (昭和58) 年に3代目で夫の利光が継ぎ、平成以降は所有する土地を活用し、不動産業に業態転換。しかし、品川区議会議員の公務が多忙を極めたため、私が事業を引き継ぎました。地域に根ざした堅実な経営で、次世代に承継できればと思います。

製造業(工業用ブラシ設計・製造・販売)

仲屋ブラシ工業株式会社

日本における工業用
ブラシ生産のパイオニア



創業

100年

創業: 1917 (大正6) 年
資本金: 3000万円
本社所在地: 東京都品川区南品川6-15-22
電話番号: 03-3474-3765

代表者: 代表取締役 丹野 雄介
URL: <http://www.nakaya-brush.co.jp/>



我が社の
百年譚

60年以上代表を務めた創業者
多業界に顧客を持つ安定経営

1917 (大正6) 年に丹野仲治が当時の荏原郡品川村で創業した個人商店、仲屋刷子 (ブラシ) 店がルーツです。創業者は11歳の時に上京して刷毛店に入り、24歳で独立しました。4代目である私の曾祖父にあたり、1981 (昭和56) 年まで代表を務めました。戦前は家庭用のハケやブラシを製造して個人客に販売していましたが、戦中から戦後には、工業用のブラシも扱うようになりました。高度成長期にはそちらがメインとなり、国鉄 (現JR) や防衛庁などを顧客にしながら、業務を拡大しました。取引先が多業界に広がったことで景気の波の影響を受けにくくなり、現在まで安定した経営が続けられています。今後も蓄積したノウハウを活かした技術営業を柱にし、お客様のニーズを見極めた当社ならではの提案を続けていきます。

中小企業

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
丹野 雄介

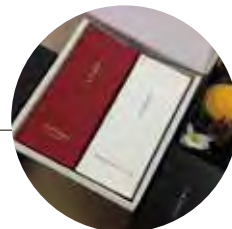
どんなに苦しいときでもリストラはしない

地味に堅実に、当たり前のことを当たり前にする経営を心がけています。初代から代々、「苦しいときでも人に手を付けない (リストラをしない)」ことを心がけ、社の人間力をいかに蓄えられるかを重要視しています。それが専門知識やノウハウの蓄積につながり、業務に活きています。

製造業(パルプ・紙・加工品製造)

株式会社山田紙器

輝100年、そして煌100年。



創業

100年

創業: 1917 (大正6) 年
資本金: 3004万円
本社所在地: 東京都品川区荏原3-5-6
電話番号: 03-6429-1185

代表者: 代表取締役 山田 晴久
従業員数: 67名
売上高: 11億5000万円
URL: <http://www.liberalpack.co.jp/>



我が社の
百年譚

和装貼箱の家内工業が始まり
業務改革を重ねて新たな挑戦を続ける

初代・山田太助が1917 (大正6) 年に和装小物の貼箱を家内工業で製作する「誠進堂」を創業。1929 (昭和4) 年に婿養子の庄吉が2代目を継ぎ、屋号を山田紙器製作所に。戦時中は包装資材の特需がありましたが、空襲で工場が焼失し、終戦後、品川区荏原に移転しました。3代目の龍造は紙管容器に注目して生産体制を整え、チョコレートの筒状容器などの大ヒットを生みました。東京五輪後の不景気による事業整理をへて、龍造夫婦は有限会社山田紙器を新たに起こし、懸命に働いて再興させました。1996年に4代目を継いだ私は、製造と販売の一体強化のため工場を東扇島に移転させた後、大井町に東京本部を新設し、営業と企画の強化を進めました。また、100周年を機に、新たに (一社) ギフト研究所を設立し、業界全体の発展に寄与していきます。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の
道標



4代目 代表取締役
山田 晴久

事業整理を乗り越え再興を果たした

昭和30年代半ば、美粧紙管容器の大ヒットや五輪景気のもとで、大規模な設備投資を続けました。しかし、五輪後の景気後退の影響により、1967 (昭和42) 年には事業整理を余儀なくされました。それでも当時の社長・山田龍造は多くの支援を受けて再起。10年足らずで株式会社化しました。

「しながわ 百年力」

事業所 MAP

平成 27 ～ 29 年度に品川区永年継続事業所表彰を受けた 59 事業所の所在地マップです。

区内を品川地区、大崎地区、大井地区、荏原地区の4地区に分け、それぞれ創業年の古い順に並べています。

